

大学選手権が始まった。

弁天堂大学の初戦の相手は、西海大学だったが、あかねはウィングステップでトライを量産し、弁天堂 112-21 西海で圧勝。1 回戦を突破した。

もうウィングステップが強すぎて、風馬など他のプレイヤーの存在がどうでもいいものになりつつある。

続いての 2 回戦も、弁天堂大学は法正大学に勝利し、準決勝進出を決めた。試合後、栗果が、片想いしている明にタオルを渡しにいかうとすると、あかねと明が仲睦まじそうにしている。ここで風馬が話しかけてきた。

風馬「いつも仲がいいねエ、あのふたりは…栗果が割り込むスキはねエさ。だけど、俺ならホレた相手に恋人がいようが結婚してようが、ぶつかってくけど…な。俺なんか濃いもラグビーにもぶつかり過ぎてボロボロだぜエ」

この言葉を聞いて、栗果は何かを決意したようだった。

その頃、入院中の青田学院大学・佐竹には柴田記者が取材をしていた。同じ格好をした 3 人組に襲われたという。…ガラシアが予定通り来ないとかで、2 人じゃなかったっけ？

警察は通り魔的な愉快犯だろうというが、柴田は相次ぐラグビー選手の事故は計画的なし傷害事件であると確信した。

柴田「そして、そこにはある共通点が…もし、俺の推理が正しければ、次の事故にあうのは関東学芸大の選手だ！！」

柴田は、この問題に密着マークすることにした。

翌日の大都スポーツ新聞社では、大学選手権の結果の速報が続々と到着してきていた。四強が出揃った。弁天堂大、明大、京法大、そして試衛館大だ。試衛館大は、試衛館 22-20 関学のスコアで準決勝進出を決めている。

柴田「おい、関学の選手で試合前に事故にあった奴とかいるか？」

ビンゴだった。ナンバー 8 の加藤が、ケガで不出場だった。しかも、歩道橋の階段で足をすべらせたのだが、誰かに足を引っ張られた感じがしたのだという。

柴田「やっぱり。これで俺の推理は 100%間違いねえ！！」

後日の大都スポーツ新聞には、「大学ラグビー 選手連続障害事件に疑惑！？」との見出しで、S 大学の関与を疑うスクープ記事が踊っていた。

試衛館大のラグビー部室には、例のコワモテ 3 人組がたむろしていたが、ラグビー部監督が、新聞を机に叩きつけて怒っている。

試衛館大監督「おい、こりゃあいったいどういう事だ！？この新聞を見る、これを見れば連続傷害事件の犯人がこの試衛館大の者だということが一目瞭然だ！！」

3 人組の一人はニイミックという名だ。

ニイミック「ちっ…もうバレちゃったのかよ。思ったより早いな」

試衛館大監督「対戦相手の選手を次々と襲えば、誰でも見当はつくわい！もっとうまくやれなかったのか。お前らそれでもプロか！？」

監督は、この件は絶対にバレてはいけないのだという。

試衛館大監督「いいか？もしこれで警察が動き出したら、出場停止どころか、俺もお前らもまとめて刑務所行きだぞ！！そしたら、大学選手権で優勝して強力な新人を引き入れるという俺の目標も、お前らの目的も水の泡になっちまうんだぞ！！」

傭兵側の目的はともかく、監督さんはそんなちっぽけな理由で、ずいぶんグスイ手を使うんですね…。

ニイミック「だから最初に俺が言ったんだ。試合に出られなくする程度じゃなく、思い切^てって殺^ちまお^つて。なあ、セリーガル」

もっとはやくバレるでしょ。ニイミックってバカなの？なお、最後の一人の男はセリーガルという寡黙な男だ。

バンダナを巻いた目つきの鋭い女性・ガラシアは、軽口をたたくニイミックを注意し、指揮官は自分であると念を押した。ガラシアが放つ冷徹な空気に、ニイミックもたじろいだ。試衛館大監督「と、とにかく高い金を払ってお前らを雇っているんだ。選手権優勝は、必ず達成してくれよ。頼む、この通りだ！」

監督は頭を下げた。

ガラシア「目的は必ず遂行してみせマス！そのためにも、次のターゲットは…明大主将の南郷だ！ただし、今度は今までとは別の方法でいく！！」

そう、試衛館大の次の試合相手は明大だ。ついに、南郷が標的になってしまった。

元旦、栗果は明のマンションを訪れていた。ゴージャスなコートを着ている。

栗果「エヘヘヘ…先輩に年賀状を見せようと思って…」

明「え？わざわざ!？」

栗果「…先輩、私のことどう思います？」

明「えっ？そ、そうねえ。可愛い子だと思ってるよ」

栗果「そ、そうですか!…じ、じゃあ見せますね、私の年賀状…」



この女、正真正銘のバカだった。

栗果は、「お願い先輩、私の年賀状を受け取って」と、明の胸に飛び込んできたが、明がこれを受け入れるはずもなく、服を着て帰されてしまった。マンション前で悔しがる栗果だったが、突然背後から何者かが口を塞いできて、拉致されてしまった。

その頃、柴田記者はあかねを呼び出していた。明大の寮に行くのにつきあってくれという。最近の相次ぐラグーマンの事故は、計画的な連続傷害事件だと断言する柴田。そして、その犯人は試衛館大が疑わしいこと。試衛館大の次の相手は明大であるから、このことを明大の選手とあかねに話しておこうと思って、呼び出したのだ。

ちょうどそのとき、明大ラグビー部合宿所では、南郷に女の人から電話がかかってくる。「渡すものがあるから、近くのコンビニの前まで来てくれ」という。ファンの女の子かと思って南郷は疑いもなく、現場に到着していた。その地点に、柴田とあかねも差しかかったところだった。

あかね「おーい…」

あかねが声をかけようとしたとき、南郷の頭上からコンクリートブロックが落下してくるのを目撃した！

あかね「あ、危ねえ。南郷よけろ!!」

この言葉に南郷はギリギリ反応し、頭上にブロックが直撃する前に何とか右腕でブロックをガードした。右腕を傷めてしまったが、命は無事だった。

あかね「柴田さん、南郷を頼みます」

あかねはそう言って、ビルの上部にいる犯人をつかまえに、階段を駆け登った。

向かいのビルには、例の傭兵 3 人組がこの様子を観察していた。今回の実行犯はこの 3 人ではないようだ。

ニイミック「な、なんで姫神あかねがこんな所に…」

あかねの出現は誤算だったようだが、

ガラシア「とにかく、あいつがつかまったら、こっちの素性もバレてしまう。予定通り、あいつの口を封じるんだ！」

という指示で、ニイミックは、あかねから逃げようとする実行犯にライフルの標準をあわせ、狙撃した。

と、同時にあかねは実行犯に追いつき、足にタックルを食らわせた！バランスを崩す実行犯。ライフルの球は肩を直撃した！

あかねは、実行犯の顔を見て驚いた。

あかね「なっ…なんで…なんで栗果が犯人なんだあ！？」

女体謹賀新年から南郷襲撃の流れ…栗果も大忙しですね。

肩に銃弾を受け、血みどろのまま栗果は気を失っている。

ガラシア「ヘタクソ！それでも部隊一のスナイパーか！？」

ニイミック「あ、あかねがあの子にタックルしたから、狙いがズレたんだ！」

ガラシアは「待てよ…姫神あかねがジャマに入ったのは計算外だったが、弁大とは決勝でぶつかることだしな…よしっ、ここでふたりまとめて殺っちまえ！」

まさに冷酷非道な傭兵のリーダーだ。ニイミックは、ライフルを連射し始めた。だが、手すりが邪魔で、命中はしなかった。柴田が驚いて階下に駆け付けた。

あかね「柴田さん、むこうのビルから銃を射ってくる奴がいる。警察に電話してくれ！！早く！」

これを聞いて、傭兵達は撤退した。

場所は病院へ移った。日付をまわっている。手術室の前で待つ、あかねと柴田。医師が出てきた。栗果の命に別状はないという。

あかね「くそう…それにしても、どこのどいつだ。栗果を撃ちやがったのは…」

そこへ三角巾をした南郷もやってきた。右腕にはヒビが入ったという。今日は準決勝の試合当日だが、右腕一本使えない位何でもないが強かった。

南郷「それより、そっちは？」

あかね「命に別状はないそうだが…でも栗果が連続ラガーマン傷害事件の犯人だなんて…

あいつ、なんでまたあんな事を……」

柴田「いや、栗果は犯人じゃねえ！」

柴田は、それを命令した奴がいるはずで、そいつが真犯人だと言い切った。そして、それは試衛館大学の連中であろうという。相手が南郷と知っていたら、栗果はあんな事はしないはずなので、たくみな手口でそそのかしたに違いない。

柴田「奴らは大学選手権で勝ち抜くために相手チームの主力選手を次々と襲ってきたのさ。しかし、今回は奴らも手口を変えてきたらしいな。俺が記事に書いたもんで、奴らは自分達にかかった疑惑のほこ先を、他にそらす目的で栗果を使ったのだろう。弁大のライバルである明大の戦力を削げば、選手権優勝の可能性は大きくなる。動機としては一応成り立つからな。そのあとで栗果を殺せば、自分達の素姓は隠せる。唯一の誤算は、俺とあかねがその場に出くわしたことだ……」

柴田記者、**名推理**だ。だが、あかねは声をあげた。

あかね「う……うそだ……俺はそんなこと信じねえぞ！ 仮にもラグビーをやってる者が、そんなヒキョーな事する訳ねえよ！！ だいたいなあ、栗果は銃で撃たれたんだぜ。大学生が銃なんか持ってるかー！？」

ラグビーをする者に悪いやつはいない……そんなことないと思うけどね。現実には、ともかく、あかねはそう信じきっているのだ。

ここで、柴田はハッと気がついた。社会部の記者が言っていた、数人の傭兵が日本に流れているという事実を思い出したのだ。

柴田「試衛大には3人の外人選手がいる……名目上は留学生という事になっているが……」

選手名簿をみると、3人の名前は、ガラシア、ニイミック、セリーガルだった。そう、試衛大の外国人選手達こそ、連続ラグーマン傷害事件の犯人である傭兵なのだった。

柴田「おいっ。お前らもしかしたら、とんでもねえ連中を相手に戦うことになるぞ！」

柴田は、病院の電話から会社に電話をかけた。社会部の同僚に、メンバーのリストや入国ルートを一急調べさせてくれと頼む。だが、こう話す柴田の姿は、廊下の陰からガラシアにきっちり確認されていた……。

3人は一旦、その場を解散した。握手をして、互いに今日の試合を激励しあうあかねと南郷であった。

柴田は病院を出て、会社に戻るためにタクシーをつかまえようとしたが、突然、後ろから傭兵達に首を絞められて気を失い、連れ去られてしまった。

1月2日、国立競技場。第一試合は明慈大学 vs 試衛館大学、第二試合は弁天堂大学 vs 京都法科大学だ。

弁天堂の控室では、姿をみせない栗果にサボリ疑惑が出ていた。元旦に、女体謹賀新年の栗果を追い返した明が、自分のせいでスネてしまったのではないかとあかねにこっそり相談しにきた。だが、あかねが銃撃事件のことを話し、栗果が入院中であることを伝えた。

だが、実情がハッキリするまでは、このことは皆には内緒にしておく約束をした。
そろそろ第一試合が終わる頃だ。どうせ明大の圧勝だろうと思いつつ、あかねが会場に出たいこうとすると、妙に観客が静まり返っている。
あかね「なんだあ？みんなハトが豆鉄砲食らったような顔してるぜ」
六角「お、おい。あれは・・・！」
六角が指さしたその先には・・・



あまりに満身創痍の南郷が、グラウンド上に立っていた。すごい絵だ。ラグージャージってこんなにボロボロになります？この漫画で一番ギョツとしたかもしれない（笑）
南郷はまだ立っているが、明慈の他の14人のプレイヤーは全員、うめきながらグラウンドに倒れ込んでいる。
あかね「そ、そんなバカな・・・あの明大がなぜこんな姿に・・・!?」
柴田が多大なヒントをくれた。ヒントに鈍いな。
機能しない明慈の選手達を尻目に、試衛館大は3人の外国人選手が自由自在にプレーをしている。
南郷「立てえっ、走らなくてもいいから立ってくれえ!!」
南郷の鼓舞をうけて、何人かの選手が気迫で立ち上がるも、とても相手に追いつく力はなかった。最後の砦である南郷が、既にキレを失ったスティッフアームタックルをしかけるも、軽快に避けられてしまう。そして、すれ違いざま、3人の外国人選手達に、**頸部・左脇腹・右脚**に同時に強烈な一撃を入れられた。そのまま試衛大がトライ。血を盛大に吹きながら、南郷は昏倒した。明慈 15-72 試衛館でノーサイド。

弁天堂と決勝であいまみえるところを誓い合った好敵手、そして V4 を期待されていた霸王・明慈は破れてしまった。

ガラシア「大学チャンプなんてこの程度か」

ニイミック「汗かく事もなかったぜ」

試衛館の外国人選手達は、グラウンドから引き上げる途中、倒れている南郷の顔を「ははは…」と笑いながら踏みつけた。

ガラシア「んー何か踏んだかな？」

しかも、一度のみならず、スパイクでしつこくグリグリと顔面を破壊した。

ニイミック「変な物踏むとシューズが汚れるぜ」

ガラシア「ああ」

この様子に、あかねはブチ切れた！

あかね「おのれらあ〜！！」

あかねは客席の柵を飛び越え、グラウンドに降り立った。

漫画「ノーサイド」の後半部では、明慈は試衛館の引き立て役に成り下がってしまったわけだが、「やられ役」を朝倉のような完全無欠なキャラクターではなく、ちょいブサ系の南郷に割り当てたあたり、作者の手腕はしっかりしている。

あかね「おいっ、てめえ南郷にあやまれ！」

確かにラグビーでは倒れている選手は石コロとみなされ、踏まれようが蹴られようが文句はいえないのだが、それはプレー中の話だ。

あかね「ノーサイドの笛が鳴ったら敵も味方もねえ。ましてや敗者を踏みつけるなんてことは、ラグーマンにあるまじき行為だぞ！」

ガラシア「ふふ…いかにも平和ボケした日本人の考え方だな。私の国では勝つことがすべて！敗北はすなわち‘死’を意味シマス！つまり、我々にとってラグビーはただのスポーツではなく‘戦争’なのデスヨ！！戦争に敗れた者が、どんな屈辱を受けようと、やむを得ない事デス…」

辛辣な言葉なのだが、語尾が外人を表すそれなので、若干マヌケに聞こえてしまう。デスヨ…って（笑）

ガラシアは、試衛館が弁大に敗れたときには、自分の顔を踏みつければいい、ただし、試衛館が勝てば遠慮なくあかねを踏みつけると言い放った。

ガラシア「シーユーアゲイン」

決勝戦は激しい戦いになりそうだ。

あかねは、担架上の南郷のもとへ駆け寄った。

南郷「あ、ああ…あ…か…ね。奴…ら…には気を…つけ…ろ。で、出来ることなら…奴ら…との試合は…避ける…こと…だ」

途切れ途切れなんだけど、やっぱり最後まで言えちゃいます。

南郷は通路を運ばれていくが、そこに明が居合わせた。意識が早池峰と入れ替わる。

早池峰「おい、ブタ。何だそのザマは一！？てめえとの勝負は、まだついてねえんだぞ。せっかく決勝でてめえをぶちのめそうと思ってたのに、こんな所でコケやがって。この脳なしブタ！！」

南郷「…ふ。ハ、ハリネズミ…か…まア…俺の分もがんばって…くれや。お前じゃ…俺の…代わりにや役不足…だがな」

残念ながら、大学選手権での南郷 vs 早池峰は実現しなかった。

その頃、柴田は縄で縛られて、廃棄ロッカーの中に閉じ込められ、ゴミ捨て場にいた。昨夜、傭兵達に拉致された後、ひと思いに殺されるかと思われたが、

ガラシア「ここに放っておけば、明日にはロッカーもろともこいつはひとにぎりの鉄の塊になるんだ。我らが直接手を下すこともないさ」

という一言で、スクラップ場に放置されていたのだ。…傭兵達、ツメ甘過ぎませんか。

作業員が巨大磁石でロッカーを持ち上げた。いよいよ、スクラップか。

柴田「くっそおー、こんな所で死んでたまるけー！！」

柴田は必死に足元の床を蹴り続けると、ロッカーの劣化が幸いしたのか、床がはがれて貫通した。ロッカーから足がはえてきたことに驚き、作業は止められ、柴田は一命をとりとめた。